第二講　芸術論・日本文化論〈選択肢中心〉

アンドレ・マルローが日本へ来た時、那智の滝を見て言ったという言葉を、私は時々思い出す。日本人の芸術観について考える場合、何時も一つのこだわりとして思い出されてくる。彼は自ら申し出て那智まで出掛けたらしいが、滝を目にしてこう言ったという。「自分は自然にはめったに感動しない男だが、これには本当に感動した。」

自然に感動しないという心情は、日本の芸術家にはあまりないのではないかと思う。そのことのプラス、マイナスは今は問わぬとして、彼等は自分の技巧のかぎりを駆使した造型物のはてに［A］を漠然と考えているようである。ものごとを対立的に捉えるという習性が、日本人はヨーロッパ人に比して弱いことが、原因かもしれない。自然と人工、あるいは芸術という関係を、対立的には考えなかった。人工の行き着くはてに、自然を見た。

明治以後、英語のネイチュアの訳語として、自然という熟語は作られた。それ以前には、自然とは、ジネンと読んで、本来そうであること、「あるべきやう」に言った。むしろ、造化が自然界を意味したが、それは単に、人間に対する自然なのではない。それは、［B］で、日本人の芸術観、あるいは美意識の根底には、どうもそのような思想があるようだ。

そういった働きが自然にあるということは、やはり自然に生きた生命を感じていることである。生物と同じく、地水火風といったものにも生命を感じ、威力を具えた霊的存在を感じている。アニミズムの思想を、日本人は心のどこかに、今も失わないでいる。自然のなかのその霊的なものを、自分の作り出した作品にも宿すことが、日本の芸術家たちの願いとなる。［C］ということは、あらゆる芸術家たちの願いであるが、日本の芸術家たちはその先を考える。造型は第一の目標でなく、その先に生命を究極の目標として考えている。芭蕉は「ものの見えたる光、いまだ心に消えざる中に言ひとむべし」と言う。目標は「かたち」でなく、「ひかり」であり、「いのち」である。

目標のはてに「［D］」でなく、「［E］」を置いているからこそ、日本（あるいは東洋）では、西洋では考えられないようなものが、芸術の仲間入りをする。茶の湯とか、生花とか、陶器とか、庭とか、書とか。このような芸術の目標を「［F］」に置いたら、それは堕落する。つねに「［G］」の果てに「［H］」を思い描くことが肝要である。一瞬の生命の高揚が遂げられ

れば、あとは［Ｉ］を止めなくても足れりとする覚悟が、日本の芸術家にはあった。

（山本健吉『「いのち」と「かたち」』による）

（注）アンドレ・マルロー……フランスの小説家、政治家。
アニミズム……自然界のあらゆる事物に精霊、特に霊魂を認める考え方。

問１　空欄［Ａ］に入れるのにもっとも適当と思うものを左の中から選びなさい。
①　神との合一　②　人間の理想　③　完全に似せること　④　自然との一体化

問２　空欄［Ｂ］に入れるのにもっとも適当と思うものを左の中から選びなさい。
①　神が自然を作ったという考えからきたもの　②　人工物に手を貸して完成させてくれる働きのこと
③　人工物をも全て含んだ世界　④　人間と対立した厳しい大自然のこと

問３　空欄［Ｃ］に入れるのにもっとも適当と思うものを左の中から選びなさい。
①　人を感動させる　②　真理を映し出す　③　形を作りだす　④　美を写し出す

問４　空欄［Ｄ］〜［Ｉ］には、「かたち」か「いのち」のどちらかの語が入る。それぞれどの語が入るか、答えなさい。
①　かたち　②　いのち

第二講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者＝山本健吉（一九〇七～一九八八）慶應義塾大学国文学科卒・文芸評論家。「日本の庭」の考察は、センター試験でも登場

●松尾芭蕉（一六四四～一六九四）江戸時代前期（元禄）の俳人。主な紀行文『奥の細道』（江戸～東北～大垣）・『野ざらし紀行』（江戸～東海道～近畿～木曽路～江戸）・『笈（おい）の小文（こぶみ）』（江戸～伊賀～明石）

芸術関連のことばで……

○「芸術は自然を模倣する」…アリストテレス（古代ギリシャ・哲学者）

○「自然は芸術を模倣する」…オスカー＝ワイルド（一九世紀・英・小説家）素晴らしい芸術作品を見た後では、自然の風景の眺めも違って見える。例えば夕焼けも絵画作品のように見えること

○「原物には誰も感心しないのに、絵になると似ているといってみんな感心する。絵とは空しいものだ」…ブレーズ・パスカル（一七世紀・仏・哲学者・数学者）

語句

造化＝ぞうか→古い日本語でネイチャーを意味する

アニマ→ラテン語で「魂・霊」　派生語に英語のアニマル、アニメーション

cf 英語ならゴースト、スピリット　ドイツ語ならガイストが「魂・霊」を意味する

復習問題　第二講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）芸術家がもてる技コウの限りを尽くす　①講　②効　③巧　④功　⑤考

（イ）使える素材をク使して仕上げる　①駆　②苦　③供　④久　⑤九

（ウ）バク然としていた目標が鮮明になる　①幕　②獏　③爆　④莫　⑤漠

（エ）工作機械が抜群のイ力を発揮する　①意　②威　③偉　④異　⑤射

（オ）究キョクの味を求めて全国を行脚　①局　②曲　③極　④旭　⑤棘

（カ）一瞬の心の高ヨウ感を得ました　①要　②揚　③陽　④洋　⑤揺

（キ）作家としてのカク悟と責任を問う　①覚　②核　③確　④角　⑤格

（ク）工芸作家としてトウ器を出展した　①唐　②塔　③党　④陶　⑤淘

（ケ）戦においては敵をだますのがカン要　①観　②勘　③感　④漢　⑤肝

（コ）目標なくダ落した生活を反省する　①唾　②駄　③堕　④惰　⑤妥

第二講　芸術論・日本文化論

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解

日本の芸術家
代表＝松尾芭蕉
人工・芸術の行き着く先に自然を見る
人工・芸術と自然との親和的関係
アニミズムの思想
一瞬の「ひかり」「いのち」重視

⇕ 対比

比較相手

ヨーロッパの芸術家（日本以外）
代表＝アンドレ・マルロー
人工・芸術と自然との対立的関係
「かたち」・造型重視

《解説》

日本文化論のモデルケースです。ヨーロッパとの比較の仕方も含め、今後さまざまな文章を読み理解する上でベースになる教材です。

問１《空欄補充》

主語にあたる「彼等」という複数形が指し示しているのは「日本人」「日本の芸術家」です。比較相手のヨーロッパ人については、これまでのところ「アンドレ・マルロー」だけですからね。さて、そのヨーロッパ人が「自然に感動しない」、自然との関係が「対立的」であるのとは、対照的・対比的なのが日本ですから「自然との一体化」の④と決まります。①は「神」が×です。人間や芸術と自然との関係が〝対立的か親和的か〟が対比の軸線です。人間と神との関係など書かれていませんね。こういうのを正しい対比喪失の誤りというのです。②も正しい対比喪失の誤りです。「理想」など書かれていません。〝理想⟷現実〟という対比はありません。こうして対比ということに意識がいけば、なんとなくではなく、なぜどのように誤りであるかが判然とします。③も同様に正しい対比喪失の誤りです。「似せるか似せないか」の比較になっていません。古代ギリシャの哲学者アリストテレスは、〝芸術は自然を模倣する（真似する・似せる）〟と語ったそうですが、今回の話題ではありません。

問２《空欄補充》

こちらも日本人の芸術家の考えが入ります。次の段落冒頭の「そういった働き」という表現も決定的なヒントになります。自然と対立的でなく仲良しで、自然自身が生きている、ある「働き」をしてくれるということですから、②ですね。①はまた「神」さまで、正しい対比喪失の誤りです。③は「人工物をも全て含んだ」が×です。何度も書きますが、人間・人工物と自然との関係が〝親和的⟷対立的〟の対比関係が大事です。自然がなにもかもつつんでしまうということではありません。したがって、この「全て」は不当な全称判断です。④の「人間と対立」は、ヨーロッパ側の説明になってしまっています。日本側キーワードを求めているのに、比較相手のキーワードを答える、あるいは混ぜる。これぞ典型的な対比混乱の誤りです。こうした間違いを用意していることから、かえって入試問題が対比の理解を問うているのだな、ということがわかります。

問３《空欄補充》

さて、今度は「あらゆる芸術家（ただし日本の芸術家以外）」のキーワードを問うています。設問によって、こうして敵役・比較相手の説明を求めてくることもあります。これらを通し、トータルで、受験生の読解力＝対比理解力を試しているのです。「造型」「かたち」を第一の目標とはしないのが、日本の芸術家です。ひるがえって、その他の芸術家はそれを第一の目標とするということになります。ゆえに③が正解です。④は、「美」を挙げていますが、「美⟷醜」の対比ではありませんね。正しい対比喪失の誤りです。②は「真理」を挙げていますが、「真理⟷偽・虚」との対比でもありません。これも正しい対比喪失の誤りです。①も同様です。「感動」の有無は今回議論されていません。ことごとく正しい対比喪失の誤りです。

問４《空欄補充》

空欄を含む最終段落は、日本の芸術家の説明でシメです。そして「いのち」が日本側キーワードです。まず、「Dではなく E」という表現ですから「かたちではなくいのち」となりますね。次いでFは、「堕落する」と打ち消されているほうですから、かたちと決まります。「Gの果てにH〜が肝要」はGを乗り越えてHが大事ということですから、「かたちの果てにいのち〜が肝要」と判断できます。最後は、最大目標である「生命の高揚」がかなえば、「Iを止めなくても足れり」すなわち、Iはなくてもよい、ということですから、かたちですね。

模範解答
問１＝④　問２＝②　問３＝③　問４　D＝①　E＝②　F＝①　G＝①　H＝②　I＝①

復習問題　解答　第二講

（ア）③　（イ）①　（ウ）⑤　（エ）②　（オ）③

（カ）②　（キ）①　（ク）④　（ケ）⑤　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）技巧　（イ）駆使　（ウ）漠然　（エ）威力　（オ）究極

（カ）高揚　（キ）覚悟　（ク）陶器　（ケ）肝要　（コ）堕落